

1. 園の教育目標

本園は、カトリックの精神に基づいて、明るく素直でたくましく、心豊かで実行力のある子どもの育成を目指しています。ひとりひとりが神に愛されて存在し、神の愛に生かされていることを伝えます。愛の実践をもって、将来隣人とともに社会に貢献していく人間としての姿勢や、根本的な価値観の土台を築きます。

2. 目指す子どもの姿

モンテッソーリ教育を手がかりとした、いのちの教育をとおして、ひとりひとりが神から与えられた恵みに感謝するとともに（感謝する心）、それを十分に発揮しながら、心身ともに自立し、自信を持って意欲的に物事に取り組み、友だちとのかかわりを深め、お互いを認め合い（思いやる心）、すすんで奉仕しようと（ささげる心）する子どもを目指します。

3. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- 自己評価に丁寧に取り組み、教職員自らが客観的に自園を見る目を養う。
- コロナ禍で自粛していた行事を改めて見直し、子どもたちにとって最善の保育が実施できるように努める。
又、全職員がひとつの方向性を持って、保育環境、保育内容の充実につなげる。
- 園生活の環境の在り方、時間の流れ、活動内容の見直しと、豊かなモンテッソーリ教育の実現。
- 子育て支援の一環として定着している、1歳児親子教室『ぶちまりあ』、入園前準備として2歳児教室『ひかり』を更に充実させる。

4. 評価項目の取り組み内容

評価項目		取り組んでいく事項
1	建学の精神・教育方針・目標の再確認と今年度の取り組みについて	・カトリック教育が、こころの教育に最良なものであるという信念を持って、職員間の意識の向上を促すとともに、子どもたちの日々の生活の中に織り込み、幼稚園生活の様々な場面において、子どもたちの神との出会いを共に喜び、子どもたちに神様の愛を伝え、子どもたちが自己肯定感を持って生活できるように導く。 ・建学の精神、教育方針、教育目標を常に心に留め、保育の基本として都度立ち返る。子育て支援の充実、就労する保護者の増加に伴い、バス送迎日数の安定、預かり保育の時間延長、実施日数を増やす。 ※今年度のめあて 明るく自ら周りの人にあいさつをする 優しい心で周りの物や動物、自然を大切にする 自分から進んで楽しみながら身体をうごかす 目標や夢をもって様々なことに取り組む 神様に見守られ、祈りとともに神様のお手伝いができる

2	モンテッソーリ教育環境の 構成・整備	・子どもたちは、モンテッソーリ教育を手だてとし、園の生活を送っている。 全ての活動の基盤になる日常生活の練習、感覚教育、言語教育、算数教育、文化教育の諸領域にわたって子どもたちが自発的に学べるよう、保育室に各コーナーを設け、本物で美しい多様な教材を準備している。 ・個別活動(室内)の時間、子ども自身が自主的に自分のしたい活動を選び、繰り返し取り組み、自分自身を成長させていく。(お仕事の時間) ・ひとりひとりが神様に愛されて存在しており、それぞれが大切なひとりだということを伝える保育、子どもが本来持っている自己教育力に従っていきいき主体的に活動できる保育、「自分でできた！」につながる導きと援助の保育、子どもの興味点を常に探り共感する保育、子どもへの認めと肯定の言葉での保育とその環境を整える。 ・子どもの今をよく観察し、子どもが今何を必要としているかその都度見極め、「やってみよう」という活動意欲を引き出す環境を整え、子ども自身が自分の力で取り組むことを大切にし、活動後「ひとりでできた」の達成感を味わえるようにする。 ・モンテッソーリ教育の園内研修を定期的に行い、職員間で学び合い、共通理解する。
3	教職員同士の協力・連携と 資質向上への取り組み	担任だけがクラスの子どもの育ちを援助するのではなく、担任間、フリー職員はもちろん、園全体で捉えるべき事柄を細かいところまで、全員で話し分かち合い、園児皆を全職員の責任と見守りの中で慈しみ育む。 学園全体の研修、カトリック幼児教育協議会主催の研修会や、保育大会に参加。 その他分野別に園外研修への積極的参加をし、研修内容を持ち帰り分かち合い実践につなげる。
4	安全管理	・防災に関する話し合い、学び合いを重ね、安全管理・危機管理に関して教職員間の意識向上を図る。(安全管理チェックシートの作成) ・遊具の点検を毎日実施し、けがや事故に繋がらないようにする 日々過ごす様々な場所の安全な環境づくりを心がけ、危険への気付きに敏感になる努力をする。 ・地震・火災・不審者想定の方月一回の避難訓練、公共一時避難指定場所への避難のための歩行訓練や、非常時緊急避難時の保護者によるお迎えの訓練など、防災教育に関する活動を続ける。 ・津波を想定した緊急避難場所に歩行訓練、安全に避難するためのルート確認を行う教会信徒の方々の御協力を得、園児登園中の門扉の確実な施錠を実施。 ・降園時、速やかで安全な帰宅を促すとともに、園周辺での道路での、保護者同士の立ち話を謹んでいただくよう啓発していく。 ・送迎時、教会下駐車場をお借りしたことにより、道路に自転車が出たり、車との接触の危険、又、雨天時の自転車の乗降が安全に行うことができるようになったので、今後も続けていきたい。 ・バス置き去り管理システムを導入したことにより、更に危機管理に努める。 遊具での事故が無いよう再度専門家と共に見直しをし、職員間で情報を共有する。 ・小門にカメラつきインターホンを設置し不審者侵入を防ぐと共に安全な子どもの登降園管理に努める。

5	情報提供(発信と受信)	・随時ホームページの更新をし、園内園外の方々に園の内容や保育の様子について情報発信をする。園の施設評価(施設関係者評価)もホームページ上で公開する。 又、“おうち園”を導入し、保育中の様子や、行事の動画や写真を保護者の方のみ閲覧できるように設定し、公開する。 ・正門付近の掲示板は近隣の方への告知やお知らせを掲載し 又、園内の掲示板にも必要なポスターやお知らせを掲示するようにしている。 母の会役員の方々とおとして、また送り迎え時の時間のかかわりの中や、行事後の保護者の感想などで、今現在の保護者の方々の声をいただく。 また、行事お手伝い時などにも保護者と職員間とのコミュニケーションを豊かにし、安心感を持ていただけるよう努力する。
6	地域の交流と子育て支援	・園外散歩や社会見学を通じて、四季折々の自然を感じ、地域の方々とのコミュニケーションのひとつともなり、また幼稚園の存在を思い出していただき、皆様に守られ愛される幼稚園であるように各学年ともに園外散歩の機会を持つようにする。(災害時の歩行避難訓練も兼ねる。) 未就園児「ひかりぐみ」(二歳児と保護者対象)、「ぷちまりあ」(一歳児と保護者対象) 幼稚園で楽しめる集まりの他、園庭開放(未就園児ならどなたでも参加出来る。)を設定。

2024 年度の自己評価まとめ

- 副園長先生(神父様)が主体となり、神様のお話の時間や七五三、聖母祭を通してより、神様の事を分かりやすく、身近に感じることができた。
- 母の会役員の方々が中心となり、行事のお手伝いをしてくださったおかげで、スムーズに行うことができた。
- 職員間のモンテッソーリの共通理解と研修を充実させ、向上できた。
- モンテッソーリ指導の職員が、少人数でおしごとの時間を作ったことにより個別で寄り添うことができた
-

2024 年度学校関係者評価

- 少人数で一人ひとりの事を全職員が把握してくれている。
- 保護者と先生の距離が近く、何でも相談しやすい。
- 学年問わず、関りがあり縦割り保育の良さを感じる。
- もっと園をアピールし、より多くの人に聖母幼稚園の事を知ってほしい。